奥日光散策・奥利根　楢俣川～後深沢

記　Ｔ野

2018年10月6日～8日
メンバー　：　Ｔ野　Ｉ崎　Ａ原

当初は、楢俣川～後深沢～狩小屋沢下降という計画でした。しかし中日の10/7の天気が崩れそうだったため、この日が核心となる当初の計画を変更して、10/6は奥日光を散策、10/7～8で楢俣川～後深沢を遡行し狩小屋沢下降をカットする計画にしました。このことで10/7は標高の低い楢俣川～後深沢下部を遡行することになり天候の影響を受けにくいと考えたからです。ただ、今回の天気予報は非常に難しく、下界の天気は10/7も晴れマーク、しかし山の天気は強風でＣランクという事でどっちを信じてよいのかわからない。さあ、凶と出るか吉と出るか・・・では報告です。

10/6

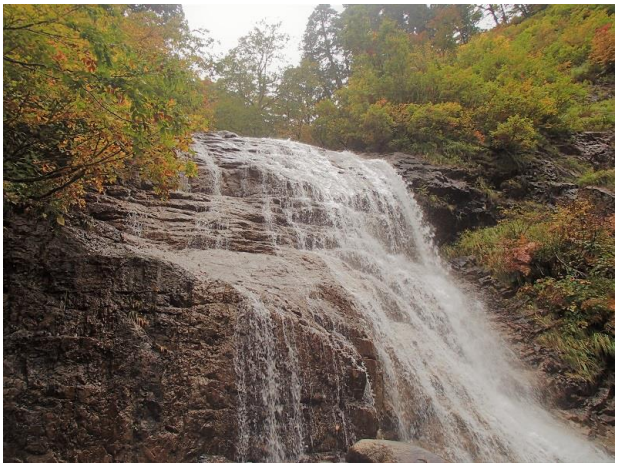
前夜、沼田の道の駅「白沢」で仮眠し、目を覚ますと予報は曇りだったが何と晴れている。うれしい誤算だが当初の計画に戻すか、前夜変更した計画で行くべきかが悩ましい。

結局、山の天気を信じ今日は沢に入らず、奥日光に散策に行くことにする。情報によれば、最近の大雨で小田代ヶ原に幻の湖「小田代湖」が7年ぶりに出現しているという。今日はこれを見に行こう。ただ、7年ぶりに小田代ヶ原を訪れる私にとって幻の湖「小田代湖」は幻でもなんでもなく、むしろ通常。小田代ヶ原のいつもの風景である草原が私にとっては幻の「草原」なのだ。いつか見てみたい、幻の草原を・・・。

まあ細かいことは抜きにして奥日光の赤沼茶屋に向かおう。途中、菅沼周辺の紅葉が素晴らしく、ちょっと観光。透明度が高いはずの菅沼が濁っているのは最近の大雨のせいか？

赤沼茶屋から小田代ヶ原へ行くトレールも紅葉真っ盛り！！高原の小道を気持ちよく歩く。そして今日のメインの「小田代湖」。湖というには水が少ないが草モミジと湖、貴婦人と呼ばれる白樺の木、それに日光連山はさすが国際的観光地「奥日光」！！素晴らしい景色だ。帰路は戦場ヶ原を経由して戻ったが、こちらは今までの森の道と雰囲気が異なり明るい湿原の川沿いの道。大きなカメラを担いだ人が大勢いてどうやら珍しい鳥を狙っているらしい。圧倒的に男性が多いのが不思議だ。花だと女性が多いのに・・・？歩きやすい木道を楽しく歩き散策を終えた。

■写真上　紅葉美しい高原の散歩道
■写真中　幻の湖「小田代湖」
■写真下　泉門沼の紅葉



その後、明日に備え、Ｔ野車を津名木橋の少し先にデポし、岩崎車で奈良俣ダムに向かい暗くなるまで車止め付近で時間をつぶし、ダム湖畔で仮眠する。

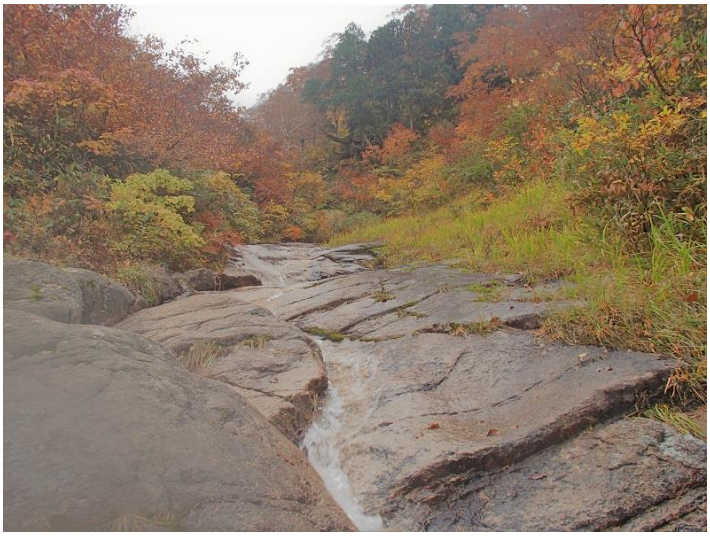
10/7

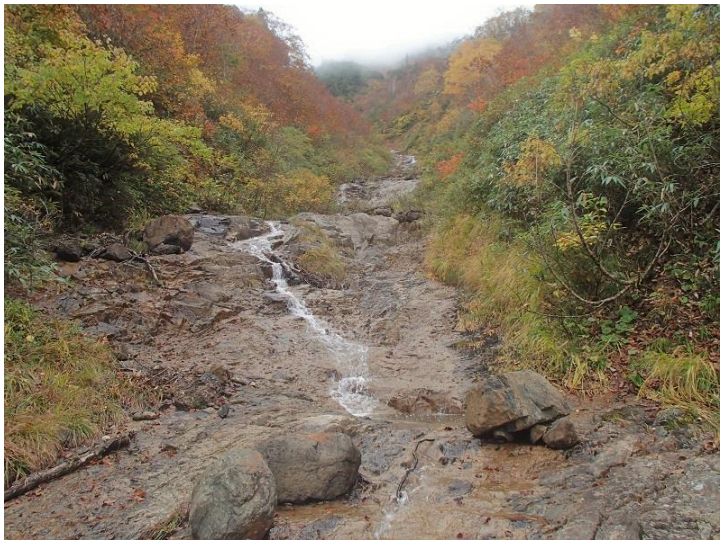
目が覚めると、重く雲が垂れ込めていつ雨が落ちてきても不思議のない天気だ。昨日の夜は星が出ていてひょっとしたら街の天気予報が当たるかも・・・と期待したがどうやら山の天気予報の登山指数Ｃランクで強風と雨の予報が当たってしまったようだ。まあ、これも想定内だが・・・。

7：00に車止めを出発。楢俣川に入るには長一いアプローチが必要だ。大きく分けて前半の峠越え、湖畔の道、薮っぽい沢沿いの道の3部で構成されていて、以前の記憶だと、湖畔の道が長くうんざりした覚えがあるのだが、実際は湖畔に出るまでの峠越えがアップダウンがあって思った以上に長く、湖畔の道は思ったほど長く感じなかった。ただ、沢沿いの薮っぽい道は以前に来た時以上に薮っぽくなっていて結構歩きにくい。湖畔の道では虹が出たりして気を紛らわせながら歩いたが、いずれにしても、あまり歩きたくない道だ。このアプローチがなければ、楢俣川の支流群はまだまだ魅力的で通いたい渓があるのだが、もうしばらくはいいかな。

2015年にも来ているのに情けないことに楢俣川への降り口が分からず、歩いていると狩小屋沢と思える沢がすぐ左側に現れた。ここで行き過ぎたと思い、戻って最初に薮が開けてテン場の跡のようになっている場所から川に降りようとしたが道がなく、強引の降りようとすると崖になっていて懸垂しないと降りれない。さらに渓相はゴルジュっぽい。薮はほとんどないので上流に向かって左岸の斜面をトラバースをしていくと最初に狩小屋沢と間違えた小沢を渡り、さらにトラバースを続けると本物の狩小屋沢が現れ、ここを下降するとすんなりと楢俣川に降りられた。（きっともっと先まで薮の踏み跡を進めば下降する踏み跡があったと思われます。小沢を狩小屋沢と勘違いしたのが敗因ですね。考えてみればここを歩く人はほとんど楢俣川に行く人なのだから踏み跡があるうちは辿っていけば良かったのだ。）

。真上　楢俣川を歩く。
■写真中上　楢俣川は美しい滝が連続する。
■写真中下　後深沢最初の7m滝。
■写真下　後深沢も綺麗な滝が連続する。





さて、長いアプローチを終え、楢俣川に入渓してしまえばいつもの美しく優しい渓相が迎えてくれる。禁漁になってイワナたちも元気であちこちで水面を走り我々の目を楽しませてくれる。ダイナミックな渓相だが難しいところもなく快適に歩くことができる。紅葉も徐々に鮮やかになっていく。晴れていればさぞかし・・・というところだが贅沢は言うまい。やがて矢種沢を右岸に分け、美しい滝と釜が連続して現れると間もなく前深沢出合。前深沢に入るとすぐに右岸から7m滝で後深沢が出合う。7m滝は下部が傾斜が強くヌメッテいて気が抜けないのでロープを使用して空身で登る。傾斜が緩んだところでブッシュでビレイを取り後続を確保。上部は傾斜もゆるくブッシュもホールドになるので容易。そのままロープを伸ばすが問題なく登れる。その後も綺麗な滝が連続して懸かり奥利根らしい快適な遡行が続く。しかしこの滝場を終えると渓は平凡なゴーロとなる。あまり上まで行くと小さな渓なのでテン場に困ると思い、ネットで見た他会の記録を参考にして1170m付近の右岸に適地を見つけ、時間はまだ早いがここをテン場に決める。薪が少なく、最近の雨でどれも湿っていて集めるのに苦労するが時間は充分にあるのでいろいろな場所からかき集め、何とか一晩快適に過ごせる量になった。日の高いうちからの宴会は楽しい。酒も時間もあっという間に進み、空には星が・・・

「よし、高気圧がパワーアップしてきた！！」明日は期待できるぞ。

10/8

昨日楽した分、今日は長丁場、標高差1100mを登り上げて下山しなければならない。4：00に真面目に起きて6：15出発。天気は・・・？「どうした？高気圧、パワーアップはどうなったのだ！！」

昨日の夜の星空で晴天が確約されたと思ったのに重たい雲が空を覆っている。しかし10分も歩くと渓に変化が現れ小滝が連続するようになる。ここからが後深沢の真骨頂！！規模は小さいがナメ床と小滝が延々と連続していて素晴らしい渓相になる。紅葉も登るにつれ鮮やかになって1300m～1500m辺りが最高だ！！惜しむらくはもう少し晴れていれば・・・。

■写真上　後深沢の紅葉とナメ。

■写真中　後深沢は美しいナメとナメ滝が連続する。

■写真下　延々となめが連続。雰囲気はミニ米子。

「ミニ米子沢だね！！」「牙のない前深沢みたい！！」まあ、難しくないけど美しさは抜群という事だ。グイグイ登って行けるがそれだけにオジサンたちは結構息が切れる。1700m付近から岩盤の色が白から黒っぽくなり、見た目険悪な雰囲気になってくる。至仏山は尾瀬側から見ると優しい雰囲気の女性的な山容だが、奥利根側は岩場が発達した男性的な風貌で、ルートファインディングを慎重にしないと追い込まれる可能性がある。7mジェードル滝の直登はシャワークライミングとなり悪そうだったので、左の枝沢の滝を5mほど登り岩のバンドを右にトラバースしてジェードル滝上部に戻ることでロープも不要で安全に抜けることができた。後深沢は小さな渓だが源流部まで豊富な水が流れていてなかなか切れず、小滝が続き楽しませてくれる。最後は1900m付近の二俣で記録に従い鞍部に突き上げる左俣の涸沢を詰める。ここは注意しないと水の流れている右俣に入ってしまいそうな場所なので要チェックポイントだ。

急峻な涸沢を落石に注意しながら慎重に登り最後に薄いハイマツの上を少し歩くと2030mの鞍部に突き上げることができた。ただここから山頂までまだ高度差200mを登らなければならない。トレースも不明瞭で登山道ではないので効率の良いルートを採るのが結構難しい。主に奥利根側を巻いていくのが薮も少なく正解だと思う。最後は昔捨てたゴミがたくさん残置された汚い急なルンゼを登ってハイマツをひと漕ぎすると山頂に着いた。

山頂はさすがに賑わっていて天気も今一つなので記念写真を撮ったらさっさと退散。滑りやすい蛇紋岩の登山道を慎重に降りる。途中からＩ崎さんがパワーアップしてペースを上げるので仕方がなくついていくと2時間かからずに鳩待峠に着いてしまった。

■写真上　後半に現れる7mジェードルの滝。
■写真下　源流も小滝が連続して楽しめる。

鳩待峠からＴ野車をデポしてある津名木橋まで歩く予定だがここで嫌な予感が・・・。この山行中、キーを見た記憶がないのだ。どこを探してもＴ野の車のキーが見つからない。よく考えてみても途中で落としたのか、Ｉ崎車に置いてきたのかわからない。かなり焦った。これでは何のために2台で来たのかわかりません。ただ、こうなったからにはＩ崎車の中にあって欲しい。もしなかったらえらいことだ。鳩待峠から大枚￥11,000払ってタクシーで奈良俣ダムへ・・・。（これでも￥13,000と言われたのを￥2,000値切ったのです。）果たしてキーは・・・？ございました、Ｉ崎車にデポしたＴ野のウエストバックの中に・・・。アホか！！何を考えているのだ自分、Ｉ崎さん、Ａ原さん、本当すみませんでした。

最後はこんな落ちが付きましたが、長いアプローチさえ苦にしなければ、紅葉も綺麗で沢も美渓系ということで奥利根らしいスンバラシイ渓です！！

前深沢の大滝直登に自信がない、本流は時間がかかりすぎる、けど奥利根の渓の綺麗なところをコンパクトに楽しみたい！！そんな人にお勧めします。真夏は林道が修行だし、水量も深いところで膝

程度なので意外に紅葉の時期が結構ねらい目です。

■コースタイム
10/6
赤沼茶屋（9:00）～（9:35）小田代ヶ原（10:05）～（10:40）泉門沼～（11:30）赤沼茶屋
10/7
車止め（7:00）～（10:10）楢俣川入渓（狩小屋沢出合）（10:25）～（11:45）前深沢出合（11:55）～（12:00）後深沢出合7m滝～（13:00）1170m付近テン場
10/8
テン場（6:15）～（9:05）7mジェードル滝～（10:15）2030m鞍部（10:25）～(11:05)至仏山(11:15)～(13:00)鳩待峠